

新型コロナウイルスのすべての変異株に有効な「ユニバーサル中和抗体」とは

2022/11/10 日刊ゲンダイ



新型コロナウイルスの感染収束を妨げ、次々に置き換わった変異株が登場するオミクロン株。

兵庫県と神戸大学大学院医学研究科の森康子教授らの研究グループは、初期のオミクロン株から今後現れる可能性のある変異株にも有効だとする抗体を開発したと発表した。

さまざまな株のウイルスの働きをなくす効果が認められたことから「ユニバー

サル中和抗体」と名付けられた。研究グループは「治療薬やワクチンなどへの応用が期待できる」という。

■あくまでも基礎研究の段階

研究グループによる開発までの経緯を紹介しておこう。

初期に流行した欧州株に感染歴があり、回復後ワクチンを2回接種した患者の血液を採取し、抗体の情報を持つ免疫細胞を取り出して分離。それぞれの抗体遺伝子を選んで増幅してウイルスの働きをなくす10種類の中和抗体を作製した。

中和抗体は体内に侵入したウイルスを攻撃して不活化する能力のある抗体で、ウイルスを排除し、感染を防止する。この10種類の抗体のうち3種類の抗体は欧州株、デルタ株、オミクロンBA.1株に対し中和活性を示すことが分かった。さらにそのうちの1種類は、すべての変異株に対し中和抗体のあることが確認された。「ユニバーサル中和抗体」である。

全世界で6億3000万人以上が感染、660万人を超える死者を出し、いまだ感染拡大を続ける新型コロナウイルス。「ユニバーサル中和抗体」は、この疫病の撲滅につながる治療薬、ワクチンの開発へと、大きな期待を持つ。しかし、期待する一方で専門家の見方は厳しい。医療ガバナンス研究所の上昌広理事長がこう述べる。

「まだ実験室で基礎研究の段階です。これからの臨床試験での効果とは次元が違う。これまで実験室で効果があると発表されながら世に出ずに失敗したケースは無数です。可能性はゼロとは言いませんが、ユニバーサルの効果があるならとっくにファイザー、武田（薬品工業）が研究参加に乗り出していますよ」

同研究グループは、実際の生体内でもウイルスの感染を阻止できるかについて、現在動物実験により有効性の解析に入っている。さらにユニバーサル中和抗体の特許を出願中だという。

■人への臨床試験に入れるかどうかは未定

治療薬の実用化を巡っては、本年5月に「改正医薬品医療機器等法（薬機法）」が成立し新薬の緊急承認制度が導入された。

しかし、新薬の申請までのハードルは極めて高い。国内初のコロナ治療薬として実用化が急がれる塩野義製薬の飲み薬「ゾコーバ」を例にとれば、臨床試験の最終段階に入る中

で、これまで何度も承認申請をしながら「有効性の判断が十分ではない」と結論を持ち越され承認を見送られてきている。政府がすでに 100 万人分の治療薬購入契約を締結したにもかかわらずだ。医療経済ジャーナリストの室井一辰氏が言う。

「あらゆる変異株に効果がある抗体を開発したというのは画期的です。ただ、現在は基礎研究から動物試験に入った段階で、今後、人への臨床試験に入れるかどうかも未定です。製薬会社の動きにも注目したいですね」

ユニバーサル中和抗体の成果を待つにはまだまだ先は長い。

(ジャーナリスト・木野活明)